

青少年相談員会報

令和5年3月15日発行

第95号

さきかけ

発行 水戸市青少年相談員連絡協議会（事務局 水戸市教育委員会事務局教育部生涯学習課 ☎029-306-8692）



視察研修（水戸市清掃工場 えこみっと）

少年の健全育成を目指して

水戸警察署 生活安全課

課長 江面 祐一



青少年相談員の皆様には、平素から警察業務全般にご支援、ご協力を賜り、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。

さて、本県における令和4年中の刑法犯少年は164人で、平成23年から令和3年までの11年連続での減少から一転し、前年に比べて6人増加しました。

増加の要因として、令和2年から続くコロナ禍において、昨年は行動制限の緩和措置により人流が回復したことが一つではないかと考えております。

また少年の犯罪被害に目を向けますと、昨年中のSNSに起因する少年の犯罪被害者数は過去最高であった令和元年と並ぶ35人となっており、スマートフォン等の急速な普及は、児童売春や児童ポルノ被害、脅迫といった事件を引き起こすなど新たな社会問題となっています。

これらの犯罪等から少年の被害を防止するためには、日々増加するコミュニケーションアプリやネットゲーム等の利用に関する正しい知識と誤った利用をした際の危険性について指導することが極めて重要であり、青少年相談員の皆様のご協力が欠かせません。

少年警察活動の目的は、少年の非行防止と保護を通じて少年の健全な育成を図ることであり、そのためには、少年を取り巻く家族、学校、地域社会による継続的なサポートが不可欠です。

今後も皆様のご支援をいただきながら、健全な少年の育成に尽力してまいります。

視察研修

視察研修部長 菊池 清志

R 4・12/6 (火)

令和4年12月6日、3年ぶりに

視察研修を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響が残る中ではありましたが、日帰りとするのと人数を制限（バスの乗車定員の半分の22人以下）すること、そして、その他の感染対策をしっかり行うことで、視察研修を実施することができました。

当日は参加者18人で、水戸市清掃工場えこみっと・下入野健康増進センター・ムラサキパークかさまを視察研修しました。各施設では、見学しながら説明をいただき、同時に私たちからの質問にも対応



いただきました。また、バスでの移動時間を利用して、那珂市の青少年相談員連絡協議会作成の「青少年相談員紹介DVD」の視聴と、視察研修部会作成の「青少年相談員クイズ」で研修を深めました。コロナ禍により様々な制限付きの視察研修となりましたが、多くの参加者が積極的に質問したり、情報交換をしている様子が見受けられました。今回の視察研修は、新たな形の視察研修として、一石を投じることができたと思っております。

令和4年度

青少年相談員実務研修会

企画部副部長 宮本 明美

R 4・1/15 (日)

令和5年1月15日、市役所中会議室にて、NPO法人「セカンド

リーグ茨城」代表 横須賀聡子様をお迎えして、ヤングケアラーについて講演していただきました。

セカンドリーグ茨城では、子育てネットによる学習会や子ども食堂の運営、食糧支援などを行っており、子育てしやすい地域作りを目指し、子どもが子どもらしく生きられる社会を作るために活動しています。

貧困や、本来大人が担うはずの家族の介護や看病を、子どもが行っているヤングケアラーの実態につ



いて、目をそむけたくなるような事例もありました。

物や情報があふれる現代社会において、受け入れ難い現実をつきつけられたようで、胸がしめつけられました。

子どもは自分からは言い出せないことが多く、私たち青少年相談員として何ができるかと考えると、地域の目となり、困ったときには話ができる大人がいる、という安心感を持てる社会作りをしていこうと強く感じました。

監事 松下 恵子

私に務まるだろうかと不安な中
青少年相談員の委嘱を受けて12年
研修会、講演会、先輩方の指導の
お陰で、今日までこれました。
多くの子どもたちに逢いました。



退任者から 活動を顧みて

水戸駅を巡回中
「おばちゃん、この前も逢ったよね。この帽子、じいちゃんに買ってもらったんだよ、今日は早く帰るよ。」と声をかけられました。その子は前回声を掛け帰宅を促した中学生集団のうちの一人数でした。私を覚えてくれた、相談員の活動の重要性を強く感じた出来事でした。

最近では声を掛けるようにも、どこにいるのか子どもたちを見かけません。
青少年を取り巻く環境は、コロナ禍が落ち着いてきたとはいえ、依然厳しい状況にあります。すべての青少年が明るく健やかに成長

できるよう願っています。皆様方の今後の活躍を期待しています。
お世話になりました。ありがとうございます。
うございました。

書記 岩間 幸一

白田会長様をはじめ、各相談員、事務局の皆様を支えられて6年間の活動を任期満了により退任いたします。

今までの活動を通じて感じたことは、少子高齢化、ネットやSNSなど青少年を取り巻く環境が大きく変化し、青少年の生活様式の変化、価値観の多様化への対応です。

これらの多様な社会情勢に対応するために、青少年への関わりは、自己流の価値観では難しく、研修を通して知識や情報を活動に生かしながら取り組んで参りました。この「貴重な体験」が宝物かなと思っております。

今日まで楽しく生きがいを持って活動出来ましたのも、相談員の皆様との「出会いと協力」のお陰と感謝しております。

退任後も青少年を見守りながら、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

緑岡中地区長 茂垣 恵美子

相談員になって、気が付くと20年以上が過ぎていました。ビックリです。

中央補導に行く「ノリママ」と子どもと同級生に声を掛けられたり、手を振ってくれた事もありました。又、何度か同じ男子高校生に声掛けをしていたら、逆に相手の方から、「よお、おばちゃん！ご苦労様です。」と言われた事もありました。そんなときは、「覚

えてくれていてありがとう！」と返しました。又、補導に参加する時は、先ず「こんにちは。」と声を掛けてから話を始めるように心掛けていました。

多くの青少年と関わる事で、私自身が若者から元気パワーをもらい、今まで楽しく元気に活動が出来、沢山の方とお会いできた事から感謝申し上げます。長い間お世話になりました。

いばらき子ども見守りネットワーク

第3ブロック研修会

R5.2/5(日)

昨年と同様に各市町村会場、個人参加者とオンラインで繋いで開催しました。

講演「里親制度について」

講師 茨城県子ども政策局

青少年家庭課 飯田一成氏

「何らかの事情で家族と離れて暮らす子どもを自分の家族に迎え入れ温かい愛情を正しい理解を持って養育する制度」です。

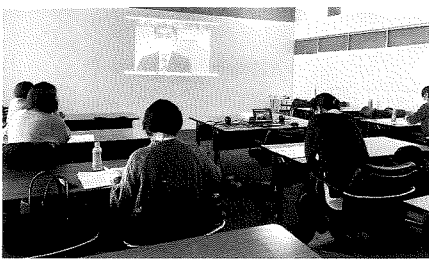
現在、県内の委託率17・4%、全国平均22・8%だそうです。

県の取り組みはフォスタリング機関(里親養育包括支援)①里親制度等普及促進リクルート事業②里

親研修トレーニング等事業③里親委託推進等事業④里親訪問等支援事業。「里親登録の条件、流れについて」もお話がありました。

初めて知る事が多く興味深く聞きました。里親を必要とする子どもたちのために里親制度を推進する広報啓発をもっとしてほしいと思

いました。(齊藤)



緑岡中地区定例会及び研修会

R4・12/1(木)

岡崎 充芳

12月1日、緑岡市民センターに12名の出席を得て、緑岡中地区情報交換会及び研修会が開催されました。

まずDVDを視聴し、青少年相談員としての心構え、認識を新たにししました。

社会環境向上研修会

「子どもの育ちを支える地域づくり」

R4・12/17(土)

講師 茨城県生涯学習・社会教育会会長 長谷川 幸介氏

小坏 麻理

令和4年12月17日、市役所での研修会に参加しました。

子どもはわからないことばかりの毎日の「冒険の旅」を歩き続け「三角形の鳥居」をめぐりながら、「幸せ力」を手に入れていくものとの事。

三角形とは、学校・家庭・地域。学校では人間が地球上で生き抜くための知識や技術など学力を。家庭では親が終生変わらない水先案

今回は、教員の方の出席が多かった

ので、各校の現状を聞かせてもらいました。SNS・タブレット等の使い方・登下校時のトラブルが心配事であるとのことでした。

結論は出ませんでした。結論は出ませんが、認識を共有することができたことは良かったと思います。

内人となり自己肯定力を。そして地域では人間はみんな違う中でつながり支え合う社会力を。三つの力を身につけながら「幸せ力」を手に入れていって欲しい。穏やかでユーモアのある先生の講演はあっという間でした。

研修を終え、子どもたちの育ちを支えられる地域の一員になれたらいいな、と思いました。



特別補導

◆黄門まつり花火大会

R4・10/22(土)

感染症対策のため10月に延期になりましたが、3年ぶりに黄門まつり花火大会が開催されました。特別補導では相談員16名が参加し、2グループに分かれて会場の千波湖付近、水戸駅周辺を巡回しました。開始前から大勢の観客で賑わい、周辺の道路は混雑していましたが大きな混乱はなく、沢山の人が久しぶりの花火を楽しんでいました。



◆水戸市二十歳のつどい

R5・1/8(日)

成人年齢引き下げのため、これまでの「成人の日式典」が、「二十歳のつどい」と名称を変え、アダ

ストリアみとアリーナで開催されました。相談員6名が特別補導に参加しましたが、新成人は落ち着いた様子で参列していました。アトラクションでは大洗高校のマーチングバンド・ブルーホークスが式典を華やかに彩りました。



編集後記

ウィズコロナよりアフターコロナへ。そして5類へ。

青少年相談員の視察や研修会も感染対策を行ったうえで、従来の活動に戻りつつあります。この紙面も掲載記事に苦勞をした事もありましたが、今年は例年の記事を載せられるようになってきました。寄稿をしてくださった皆様、ご協力くださった皆様、ありがとうございました。(飯村)